

#### 〔4〕 研究開発単位Ⅲ「SOZAN 国際塾」

##### (1) 取組概要

SOZAN 国際塾の目的は、意欲ある生徒を対象に、幅広く深い教養、課題発見・解決能力、新たな価値を創造する力、主体的に行動する力、他者と協働する力、自他を尊重する力の6つの資質と能力を身につけ、グローバル社会で活躍できる生徒を育成することである。これらの能力を身につけ、課題研究を深めるために、なるべく多くのインプットとアウトプットの機会を与えようと年間を通し様々な活動を行った。校内ではそれぞれの課題研究に対する指導を軸に据え、外国人教員によるグローバルスキルトレーニング、国際交流や、他校の生徒との交流の場を積極的に設けると同時に、多種多様な校外のイベントへの参加を促し、それらの機会を通じて国際塾生は大いに刺激を受けた。また、アウトプットの場として、校内外合わせ豊富な発表機会を準備し、それに合わせて生徒は課題研究を進め、そこから得たフィードバックを元に研究をさらに発展させることができた。

今年度の塾生は、1年生7名、2年生13名の計20名であった。国際塾生は「持続可能な開発目標(SDGs)」をもとに研究領域・分野を決定し、各グループがその研究分野に関連した課題を設定して研究を行った。1年生は課題研究を進めていくための素地を築くことを第一に、必要な知識・技能を養うため、校内での様々な研修を受けたり、それぞれの興味・関心に応じて多種多様な校外でのイベントに参加したりした。それらを通じて学んだことをもとに、多角的な視点を持ち、信頼のおける情報源に自らあたりながら調査や分析を行い、2年生は昨年度の課題研究をさらに深めるため、外部機関等、各方面と連携を取り、協力を仰ぎながら調査に赴き研究内容をさらに発展させた。

##### SOZAN 国際塾 課題研究テーマ一覧

・失語リハビリゲームの開発
・途上国の教育の現状と改善策
・発達障がいについての啓発
・美術教育で育む創造力と表現力
・ゲームと学習能力向上の関係について
・視覚障がい者に向けての自助具

## (2) 成果

各種イベント・発表会ごとに回答してもらったアンケートやレポートの結果を見ると、今年度の多くの塾生が、各種イベント・発表会等を通じて幅広く深い教養を身に付けることができたという回答している。また、校内外をはじめ、他者との協働を通して自他を尊重しながらも主体的に行動し、リーダーシップやフォロワーシップを養うことができたという報告も、複数の行事を通じて挙げられている。他者とかかわっていく中で、社会で問題になっている課題を見つけ、複数の情報をもとに解決策を導いていく力や社会的事象に対して新たな価値を創造する力を身に付けることができたという報告する塾生も多い。

今年度は少しずつ対面での発表会やイベントも再開されるようになり、他校の高校生や大学教授、企業人等、様々な分野で活躍している人々との直接的な交流の機会も増えた。多くのセミナーや発表会、イベントに関する継続的な情報発信を行い、活動を絶やさないようにした成果が表れているのではないかと考える。グローバル合宿での貴重な体験を始め、多くの外部の講義への参加等が功を成したと考えられる。今年度は校内外における多くの発表の機会を与えることができ、それに合わせて研究を進め、グループで発表の整合性を確認し、発表からのフィードバックを得て、内省し、研究を深めるといった良いサイクルを作ることができたことも6つの資質能力の向上に貢献できた。社会的な問題について自分のこととして考える傾向も見受けられ、どの塾生も社会貢献の意識を身につけることができたと言えることも今年度の大きな成果といえる。

## (3) 課題

国際塾生に対して研究を行う際、安易に校内でのアンケート等に頼るのではなく、信憑性のあるデータを集め、根拠をしっかりと示すことのできる研究を行うこと、データの出典を確認し、複数の情報から多角的な視点で情報分析を行うことを指導してきた。そのため、インターネットや文献からのデータを使う際、情報源を確認しながら複数の情報を突き合わせて研究に生かしていくことができている。今後の課題としては、文献調査にとどまらず、フィールドワークやインタビュー、実験等の外部機関と連携した研究をより積極的に行っていく必要がある。また、情報を分析する場面で、どの方法を用いて分析を進めれば良いのかが分からず、苦戦している様子が見られたり、せっかく収集した情報をうまく分析したりことができずに、自身の課題研究に十分に活かすことができていない場合もあった。今後は分析方法について指導する時間を拡充し、実践や演習等を通じて適切な分析方法を身につけさせていく必要があると考えられる。

対面で行われた全国高校生フォーラムでは例年発表と質疑応答が英語によるものであるが、準備していった内容については他の学校と遜色ないものになっていると考えるが、即興性が求められる英語の質疑応答ではまだまだ磨きをかけるべきところが多く、グローバルスキルトレーニングをはじめ、日ごろの活動においても英語でのやりとりを意識して取り組むべきである。